

1 令和6年度の成果と課題

国語科においては、前年度課題であった「基礎」では目標値と同程度の結果が見られた。課題が見られる箇所は学年によってさまざまだが、校内平均正答率が、教科全体の目標値とも、基礎・活用といった内容による目標値とも、少しずつ値が近づいてきていることは成果であるとする。そのため、それぞれの調査結果の分析や、日々の指導の中で見取った児童の苦手意識をもとに、引き続き、日常の授業の中で、既習の漢字を活用して書いたり、振り返りや感想文など自分の考えを明らかにして書く活動を意識して取り入れたりする必要がある。また、説明文や物語文を扱う際には、叙述をもとに答えを見つけたり、自身の考えを記述されたりする必要もあると考える。

2 今年度の調査結果の分析

「第4学年」

「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関して目標値を下回っている。特に、「書くこと」に関しては、目標値を10ポイント以上下回っている。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」に関しては、目標値を上回った。

「第5学年」

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に関して目標値を下回っている。一方で、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関しては、目標値を上回った。

「第6学年」

「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」に関して目標値を下回っている。特に、「書くこと」に関しては目標値を10ポイント以上も下回っている。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関しては、目標値を上回った。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 話の内容を正確に読み取る・聞き取る力を養う。

全：「話の聞き方」を教室に掲示するなどして聞く姿勢の習慣付けを図る。

低：文章を読むことにしても、話を聞くことにしても、教師が端的に指示を出したり、視覚的に示したりして、中心となる部分と補足説明としてある部分があるということを意識させる。

中：文章を読む際は、キーワードを探させる活動などを通して叙述を基に筆者が最も伝えたいことは何かを意識させる。話を聞く際は、効果的なメモの取り方や話を聞く姿勢について指導する。

高：文章を読む際は、要約文を作らせるなど、叙述を基に筆者が最も伝えたいことは何かを意識させる。話を聞く際は、効果的なメモの取り方、目的意識をもって話を聞く姿勢について指導する。

2 書く力を高めるために文章の構成力を身に付けさせる。

全：各学年とも、書く学習の際に適宜「書くって楽しいね」を活用する。

低：文章を読む時に文の構成を意識して読むようにさせ、絵日記や観察記録文などを書く作業を定期的、計画的に設定する。

中：日常的に文章を書く時間を取り入れ、段落を意識させたり自分の意見とその理由を明確にして書くことを意識させたりして、書くことに慣れさせる。文章の中心となる言葉や文を意識させたりする。

高：文章を読むときに文の構成に気を付けながら読ませる。主語述語を用いた短作文を書かせ、文の構成に慣れ親しませる。常体と敬体の使い方に慣れるようにする。

3 言葉の力を高めるために語彙力を豊かにする。

全：国語の教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を活用する。漢字学習は、学校での新出漢字の学習に加え、既習の漢字を振り返る時間を定期的に取り入れる。また、週1回の朝読書と合わせて隙間時間の読書に取り組み、語彙力向上を図る。

低：授業の中で、視写や簡単な文づくりをして正しい言葉の使い方や意味等を理解させる。

中：国語辞典や漢字辞典などを活用し意味調べを行う。国語辞典は第3学年で使い方を学ぶ単元の学習後も、

説明文の導入で意味調べを行うなどして、継続して使用する機会を授業内で設け、定着を図る。

高：音読や読書、辞書を使って意味を調べる時間を増やす。また、まとめ新聞作りや感想文など、他者を意識して書くことができる場を設定し、自分の考えや意見をアウトプットする習慣を身に付けさせる。